

チャレンジ!
野菜作り
 マメ科の連作に注意
エンドウ

園芸研究家 成松次郎

エンドウには、若い豆を食べる実取りエンドウ、さやを食べるサヤエンドウ、そして豆とさや両方を楽しむスナップエンドウがあり、目的に応じた品種を育てます。

「畑の準備」

マメ科の野菜は、同じ畑で連作すると生育障害が出やすいため、4〜5年はマメ科を育てていない畑を選びましょう。

種まき2週間前に畑1mあたり苦土石灰100gを全面に施して土とよく混ぜます。その1週間後、

図1 畑の準備1

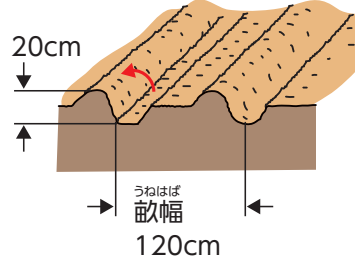


図2 畑の準備2

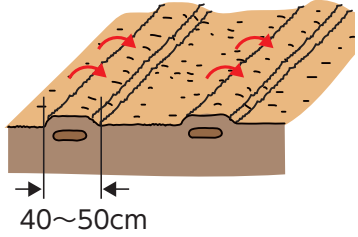
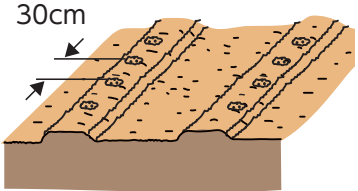


図3 種まき



「種まき」

まず120cm間隔で、深さ20cmの溝を掘ります(図1)。次に溝1mにつきN・P・K比各10%の化成肥料(固形30号など)100gと堆肥1kgを入れてよく混ぜ、畝幅40〜50cmに整えます(図2)。

エンドウの種まき適期は、10月中旬〜11月上旬で、年内に生育が進み過ぎないように、早まきしないことが大切です。株間を30cm程度明け、1カ所に4〜5粒じかまきします(図3)。鳥害防止に不織布をべた掛けして保護しても良いでしょう。発芽が揃ったら2本を残して間引きます。

「追肥と支柱立て」

生育が勢い良くなり始める春先と開花始め頃の2回、化成肥料を畝1mあたり10g与えましょう。

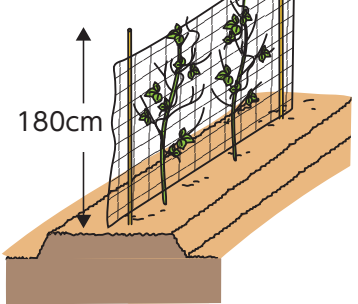
「病害虫の防除と収穫」

スナップエンドウ、実取りエンドウでは、さやが膨らむ時期にも同様に追肥します。追肥後は株元に土寄せをしておきます。つるありの品種は、つるが伸び始めたなら(図4)を参考に支柱を立てネットを張りましょう。

さやができる頃、葉を内部から食い荒らす害虫・ハモグリバエが発生するためマラソン乳剤などで防除します。うどんこ病は、カリグリーン水溶性などで予防します。サヤエンドウは、開花から15日ほど経って実が膨らみ始める頃、スナップエンドウは、さやが鮮緑色になり豆が肥大して断面が円形となる頃(目安は開花25日後)に収穫しましょう。

本文で紹介した種子などは、JAでお取り寄せできます

図4 支柱立て



肥料・農薬のご紹介

良いお米づくりは
 土づくりから
とれ太郎



今年も収穫の秋になりました。水稲の収穫のあとに控える大切な作業が「土づくり」です。当JAは、土づくり資材として「とれ太郎」をお勧めしています。

◆とれ太郎の特徴

- ① 収量・品質UP!
根張りが良くなるため、養分吸収を助けたり、倒伏防止にったりします。
- ② 病害虫に強くなる!
含有するケイ酸が葉を硬くするので病害虫などに強くなります。
- ③ 高温障害を軽減する!
受光態勢が向上して登熟に必要なデンプンが蓄積され、高温に強くなります。

フレコンでの散布も受け付けていますので、来年の作付に向けてぜひ、お申し込みください。
 ※詳しくは、各営農センターまでお問い合わせください